

# 畜産みやぎ

発行所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号  
宮城県畜産協会  
電話 022-298-8473

編集発行人

木村春雄

印刷所

(株)東北プリント



「北光」号 (写真提供 宮城県畜産試験場)

## もくじ

CONTENTS

平成17年度生乳需給状況について .....	2	<畜試便り> 県期待の基幹種雄牛たち 「北光」・「繁奥」・「奥北茂」・「神勝福」・ 「勝緑」号について .....	8・9
口蹄疫の発生防止について .....	3	「牛乳・乳製品フェア ミルクカレッジ2005」 開催報告について .....	10
点検・やってみよう「農業環境規範」 —環境と調和のとれた 農業生産活動規範— .....	4・5	第45回仙台牛枝肉共進会終了報告 .....	10
登米市(迫・南方)有機センター紹介について .....	6	第12回全日本ホルスタイン共進会終了報告 .....	11
仙台中央食肉卸売市場30周年を迎えて .....	7	<衛生便り> 高病原性鳥インフルエンザ .....	12
		New face .....	12

みやぎの  
畜産情報  
発信基地

### 宮城県畜産協会ホームページ

URL <http://miyagi.lin.go.jp>

Eメール [mygchiku@mwnet.or.jp](mailto:mygchiku@mwnet.or.jp)



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、  
植物性大豆油インキを使用しています。

平成17年度生乳需給状況について

東北生乳販連宮城支所  
みやぎの酪農農業協同組合

平成17年9月までの全国の総受託乳量は、4,027,091ト(前年比99.3%)で0.7ポイント前年を下回り、昨年の7月以降13ヶ月連続前年割れが続いていましたが、直近の9月では1.1ポイント前年を上回っています。地区別にみると、北海道の9月までの総受託乳量は、1,907,064ト(前年比100.1%)と僅かに前年を上回っており、月別推移では昨年の夏場以降は前年割れとなっていました。一方、都府県の9月までの総受託乳量は2,117,027ト(前年比98.6%)と1.4ポイント前年を下回っています。昨年の6月が23ヶ月ぶりに前年水準を上回ったものの、夏場の猛暑や度重なる台風の影響等により再び前年割れで推移し、直近までその傾向は続いています。

東北の9月までの総受託乳量は、359,826ト(前年比98.2%)で1.8ポイント前年を下回っており、昨年の3月以降、19ヶ月連続で前年割れとなっています。各県別にみると、依然前年割れが続いているものの、直近の9月では青森県(4月も1.0ポイント前年を上回っている)、福島県がそれぞれ1.2ポイント、0.8ポイント前年を上回っています。

一方、9月までの用途別販売実績は、飲用牛乳向けが269,956ト(前年比94.9%)、はっ酵乳等向けが30,400ト(前年比104.2%)、特定乳製品向けが42,899ト(前年比104.1%)となっており、飲用牛乳向けについては3.9ポイント前年を下回っており、依然、飲用牛乳の消費低迷状況が続いています。はっ酵乳向けについては、4月以降、5ヶ月連続で前年を上回って推移していましたが、直近の9月は1.4ポイント前年を下回り10月以降の動きを注視して行きたいです。

本県の9月までの総受託乳量は、89,540ト(前年比99.0%)で1.0ポイント前年を下回っており、計画数量148,187トに対する進捗率(標準進捗率58.4%)は60.2%で標準進捗率と比較して1.8ポイント上回っています。また、月別推移では10月が21ヶ月ぶりに前年水準を僅かに上回りました。

17年度の生乳需給は大変厳しいものがあり、牛乳とバター消費が著しく減少していることが特徴となっています。この結果、余乳の処理が大きな問題となっており、計画生産内の販売基準数量内でも、場合によっては、地域によって年末・年始等に販売不可能乳の発生も心配されます。優位な生乳取引を進める上でも、いままで以上に高品質な生乳生産が重要となります。生産者の皆様には、乳質管理の徹底と良質乳生産(特に体細胞)につきまして尚一層のご協力をお願いいたします。

平成17年度県別生乳受託販売・東北用途別販売実績

(単位: kg, %)

Table with 13 columns: 県, 月, 4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 合計. Rows include 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島, and 計.

(単位: kg, %)

Table with 13 columns: 県, 月, 4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 合計. Rows include 総受託販売乳量, 飲用牛乳向け, はっ酵乳等向け, 特定乳製品向け, チーズ向け, 全乳哺育向け.

(業務課 菅原 久義)

# 口蹄疫の発生防止について

## 宮城県産業経済部畜産課

日本では、家畜の重要な疾病のうち、これまで発生が無い又は長年発生を認めていないものを海外悪性伝染病として、家畜衛生における重要な疾病に位置付け家畜防疫を推進しています。口蹄疫もその中の1つですが、2000年に92年ぶりの発生が確認されるまでは、誰もが経験することの無い対岸の火事のような疾病と思っていたのではないのでしょうか。

わが国での発生は幸いなことに、獣医師や関係機関の努力により蔓延化せずに終息化しましたが、海外では、今でも多くの国で発生が確認されており、その防疫対策の難しさが伺えます。近年の東南アジアにおける口蹄疫の発生状況を見ると(図-1)、2005年だけでも中国、モンゴル、ロシア極東地域等で発生が確認されています。また、ベトナムやカンボジア、タイなど東南アジア諸国においても継続的に発生しており、近年、国際交流が盛んな状況であることから、再発防止のため、監視体制強化が行われています。

口蹄疫の発生国からの畜産物等の輸入はもちろん禁止されており、中国からの穀物わらや飼料用の乾草も2005年5月28日以降は輸入禁止措置が取られています。また、旅行者への対応としても農林水産省動物検疫所では海外の発生地域において、やむを得ず畜産関連施設に立ち入った人に空港での履物消毒を呼びかけています。そのような場合は、動物検疫カウンターに申し出て頂くように協力をお願いします。

2000年の宮城県での症例は、非定型的な症状であったことは皆さん承知のことと思います。しかしながら、この症例のように早期発見と診断、初動防疫措置を行うことが、口蹄疫の蔓延化防止において重要なことです。口蹄疫の典型的な症状は、突然の発熱(40~41℃)、元気消失と多量の流涎(よだれ)がみられ、口や蹄、乳頭等に水疱やピランを形成し、食欲不振や跛行(足を引きずる)が見られます。乳牛では泌乳停止も見られます。また、豚に感染するとウイルスの排泄量が牛より100倍~2,000倍多いとされ、豚での発生がある場合は撲滅が非常に困難です。

口蹄疫の早期発見のためには、日々飼養管理で家畜の健康状態を観察している飼養者の方々や農場に立ち入る機会の多い畜産関係者の方々の危機管理意識が大切と考えています。家畜伝染病予防法にも飼養衛生管理基準が定められており、家畜の所有者が疾病の発生や蔓延防止のため、日頃から留意すべき項目が記載されています。

もし、異常を認めた場合は直ちに、獣医師又は最寄りの家畜保健衛生所や地方振興事務所畜産振興部に連絡をお願いします。





点検・やってみよう「農業環境規範」  
—環境と調和のとれた農業生産活動規範—

宮城県産業経済部畜産課

「農業環境規範」とは？

農業環境規範は、環境と調和した農業生産活動を行っていく上での基本的なポイントを整理したもので、農業者の皆さんが自分の営農活動を自己点検する際に使用するものです。

「農業環境規範」がなぜ、作られたか？

農業はもともと環境と調和しておりますが、その生産活動によって環境に悪い影響を及ぼしてしまうこともあります。近年、多くの人々が環境問題に関心を持っており、農業生産に対する理解と支持を得ていくためにも、環境に配慮した取組は欠かせません。

農業環境規範は、環境と調和した農業生産活動を広く実行していただくために作られました。

このため、農林水産省が実施する各種の補助金、資金等は農業環境規範を実践する農業者に対して講じていくことが基本となり、事業実施の手続きには点検シートの写しの提出などが検討されています。

農業環境規範は「作物の生産」と「家畜の飼養・生産」に係る点検項目があります。両方に該当する農業者（飼料作物生産を行っている農業者など）は、その両方の項目について点検を行います。

各点検シートは次のとおりとなっております。各項目を自らチェックし、取組が出来ていればチェック欄に印をつけます。シートは次回の点検（1年間後）まで保管します。

環境と調和のとれた農業生産活動規範 点検シート（家畜の飼養・生産）	
【点検の方法】	
① 毎年、各項目について、過去一年間の実行状況を点検します。	
② 点検は、農業経営全体の状況について行います。（例えば、畜種ごとに点検する必要はありません。）	
③ 点検は、次ページの「取組(例)」を参考に農業者自らがを行い、実行できていると判断する場合には、チェック欄にレシカ○印を付します。	
④ 該当がない項目や実行できない項目がある場合は、チェック欄には印を付けず、その項目ごとに下欄にその理由、改善の予定などを記入します。	
⑤ 作成した点検シートは、次回の点検まで保存します。	
	チェック欄
<b>家畜排せつ物法の遵守</b> 1 家畜排せつ物の管理の適正化による大気、水等の環境保全や、家畜排せつ物の利用の促進による循環型社会形成への貢献を通じ、健全な畜産業の発展に資することを目的として、家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律(家畜排せつ物法)を遵守する。	<input type="checkbox"/>
<b>悪臭・害虫の発生を防止・低減する取組の励行</b> 2 家畜の飼養・生産に伴う悪臭、害虫の発生は、主として畜舎における家畜の飼養過程や家畜排せつ物の処理・保管過程に起因し、畜産経営への害情発生要因の中の多くを占めることから、その防止・低減に資するため、畜舎からのふん尿の早期搬出や施設内外の清掃など、家畜の飼養・生産に伴う悪臭、害虫の発生を防止・低減する取組を励行する。	<input type="checkbox"/>
<b>家畜排せつ物の利活用の推進</b> 3 循環型社会の形成や農業の自然循環機能の促進に資するため、家畜排せつ物のたい肥化、液肥化又はスラリー処理等を行い、作物生産等への利用の推進に努める。ただし、作物生産等への利用が困難な場合又はより適切な処理・利用方法がある場合には、炭化、焼却、汚水浄化、委託処分等の適切な方法による処理等に努める。また、地域的条件等に応じ可能な場合についてはメタン発酵等によるエネルギー利用に努める。	<input type="checkbox"/>
<b>環境関連法令への適切な対応</b> 4 循環型社会の形成や大気、水等の環境の保全に資するため、使用済みプラスチック等の廃棄物、臭気及び排水等の経営体外への排出等に際して、関連する環境法令に応じた処分等に努めるなど適切に対応する。	<input type="checkbox"/>
<b>エネルギーの節減</b> 5 温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制や資源の有効利用等に資するため、畜舎内の照明、温度管理など施設・機械等の使用や導入に際して、不必要・非効率的なエネルギー消費がないよう努める。	<input type="checkbox"/>
<b>新たな知見・情報の収集</b> 6 環境との調和を図るため、家畜の飼養・生産に伴う環境影響などに関する新たな知見と適切な対処に必要な情報の収集に努める。	<input type="checkbox"/>
<b>【該当がない項目、実行できない項目がある場合等の理由、改善の予定など(記入欄)】</b>      	
点検日	年 月 日
点検者	印

環境と調和のとれた農業生産活動規範 点検シート (作物の生産)

【点検の方法】

- ① 毎年、各項目について、過去一年間の実行状況を点検をします。
- ② 点検は、農業経営全体の状況について行います。(例えば、作目ごとに点検する必要はありません。)
- ③ 点検は、次ページの「取組(例)」を参考に農業者自らがを行い、実行できていると判断する場合には、チェック欄にレ印か○印を付します。
- ④ 該当がない項目や実行できない項目がある場合は、チェック欄には印を付けず、その項目ごとに下欄にその理由、改善の予定などを記入します。
- ⑤ 作成した点検シートと、7の項目で保存した記録は、次回の点検まで保存します。

	チェック欄
<p><b>1 土づくりの励行</b> 土づくりは、環境と調和のとれた農業生産活動の基盤となる技術である。また、土づくりにおけるたい肥等の有機物の利用は、循環型社会の形成に資する観点からも重要である。このため、たい肥等の有機物の施用などによる土づくりを励行する。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>2 適切で効果的・効率的な施肥</b> 施肥は、作物に栄養を補給するために不可欠であるが、過剰に施用された肥料成分は環境に影響を及ぼす。このため、都道府県の施肥基準や土壌診断結果等に則して肥料成分の施用量、施用方法を適切にし、効果的・効率的な施肥を行う。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>3 効果的・効率的で適正な防除</b> 病害虫・雑草が発生しにくい栽培環境づくりに努めるとともに、発生予察情報を活用し、被害が生じると判断される場合に、必要に応じて農薬や他の防除手段を適切に組み合わせて、効果的・効率的な防除を励行する。また、農薬の使用、保管は関係法令に基づき適正に行う。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>4 廃棄物の適正な処理・利用</b> 循環型社会の形成に資するため、作物の生産に伴って発生する使用済みプラスチック等の廃棄物の処理は関係法令に基づき適正に行う。また、作物残さ等の有機物についても利用や適正な処理に努める。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>5 エネルギーの節減</b> 温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制や資源の有効利用等に資するため、ハウスの加温、穀類の乾燥など施設・機械等の使用や導入に際して、不必要・非効率的なエネルギー消費がないよう努める。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>6 新たな知見・情報の収集</b> 環境との調和を図るため、作物の生産に伴う環境影響などに関する新たな知見と適切な対処に必要な情報の収集に努める。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>7 生産情報の保存</b> 生産活動の内容が確認できるよう、肥料・農薬の使用状況等の記録を保存する。</p>	<input type="checkbox"/>

【該当がない項目、実行できない項目がある場合等の理由、改善の予定など(記入欄)】

点検日 年 月 日

点検者

印

## 登米市（迫・南方）有機センター紹介について

## 登米市産業経済部畜産課

4月1日に登米郡8町と津山町が合併して登米市が誕生しました。

登米市の農業粗生産額は286億6千9百万・米が136億3千2百万円（50.3%）畜産88億2千7百万円（32.8%）2部門で全体の83.1%を占め、県内有数の水田と畜産との複合経営が中心となっております。

家畜飼養頭数については、乳用牛2,750頭・肉用牛（繁殖）8,038頭・肥育牛（肉用種）8,857頭・肥育牛（乳用種F1）6,590頭・種雌豚5,738頭・肉豚45,128頭・ブロイラー28,800羽と県内有数の畜産地帯であります。

迫有機センターは、平成12年度～平成16年度畜産基盤再編総合整備事業により平成16年11月から稼動、南方有機センターは平成15年度から平成17年度資源リサイクル畜産環境整備事業により平成16年12月から稼動しております。

有機センター整備の目的は、トレーサビリティ制度などにより安全・安心な農畜産物の生産と供給を図りながら消費者の信頼を得るとともに、生産コストの削減を行い農業経営基盤の安定化を図らなければなりません。その方法のひとつとして、有機センターで生産されるたい肥を使用し化学肥料をできるだけ使わない有機物循環型農業の推進を図る目的で迫・南方有機センターが建設されました。

また、指定管理者制度を利用し「みやぎ登米農業協同組合」に管理運営を委託しております。各有機センター利用組合が主体的となり有機センターへの家畜排せつ物搬入計画の調整や地域の耕種農家に有機肥料の安定供給を行っております。

## 迫・南方有機センター概要



	迫有機センター	南方有機センター
事業名	畜産基盤再編総合整備事業	資源リサイクル畜産環境整備事業
所在地	迫町新田字井守沢153番地1	南方町新鳩峰1
事業期間	平成12年度～16年度	平成15年度～17年度
稼動年度	平成16年11月	平成16年12月
稼動日数（日）	240	300
処理量（t/日）	38.0（生28.0）	25.2（生17.6）
処理量（t/年）	6,720	7,560
製品堆肥（t/日）	6.1	7.3
製品堆肥（t/年）	1,464	2,190
商品名	大きくなあれ	スーパーミノール
処理方式	パドル式	スクープ式攪拌機による自動攪拌
その他	バラ製品・袋詰製品・ペレット製品	バラ製品・袋詰製品・ペレット製品

## 仙台中央食肉卸売市場30周年を迎えて



仙台中央食肉卸売市場株式会社

代表取締役社長 佐藤 節夫

仙台市中央卸売市場食肉市場が東北・北海道唯一の中央食肉卸売市場として誕生以来30周年を迎えました。当市場は我が国でも有数の肉畜の生産地に位置しており、生産者にとっては安心して出荷でき、また買参者にとっても数量・内容とも安定した購買を期待し得る食肉流通の拠点および価格形成市場として、重要な役割を果たしてまいりました。この間の関係当局のご指導と関係業界の皆様のご尽力、ご協力に深く感謝申し上げます。

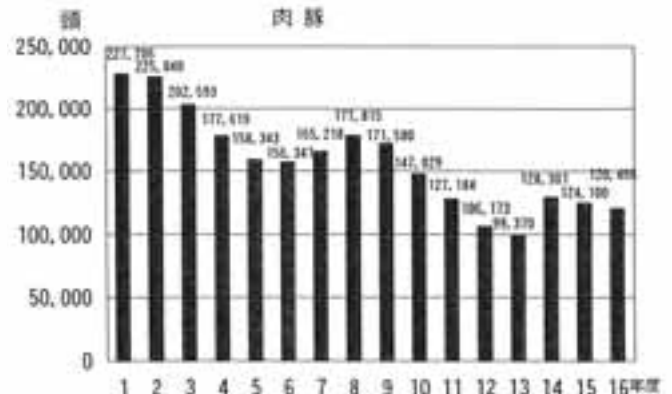
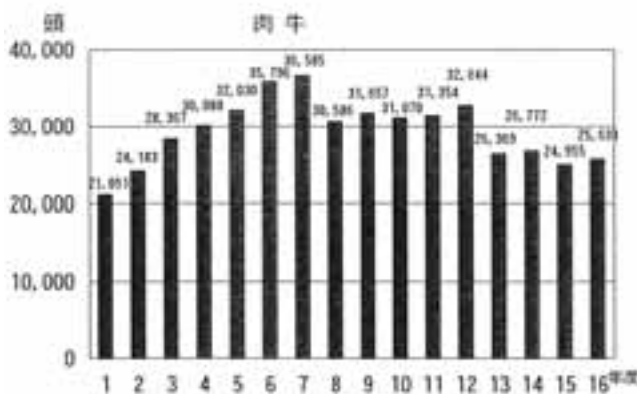
顧みますと、国内畜産業界は平成3年4月からの牛肉の輸入自由化以降、幾多の情勢変化に遭遇してまいりました。とりわけ平成8年以後はO-157から始まり平成13年にはBSEの発生、さらには平成16年に鳥インフルエンザの発生と、国内消費者の食肉に対する安全安心志向はとみに強まりました。

このような情勢下で当市場は、食肉の早急なる安全確保のために、開設者のご支援をいただき、入口のと畜ラインから、出口の部分肉食肉加工ラインまでの一貫した衛生管理対策を一層充実させた食肉の処理工場の完成にこぎつけております。これにより平成16年には、日産200頭の処理が可能な牛の最新式ラインが稼働し、また平成17年には衛生設備を施した部分肉の新加工場を増設いたし、牛50頭、豚400頭カット規模の利用者の品質向上に対する要望に応えることが出来る事になりました。

また、本年4月からは今後の激変する市場間の環境変化に対応するために、市場内3社の合併をいたしております。この合併により今後想定される市場外流通や卸売市場法の改正等による、環境変化に対応すべき体制ができました。

今後も安全な食肉供給市場として当市場は、業界発展と消費者への安心な食肉提供に向けまして、役職員一丸となって誠心誠意頑張る所存でありますので、出荷者・買参者および関係各位の倍日に増しますご支援・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

### 取扱頭数の推移





## 〈畜試便り〉

## 県期待の基幹種雄牛たち

### 「北光」・「繁奥」・「奥北茂」・「神勝福」・「勝緑」号について

宮城県畜産試験場

## ●「北光」号

「北光」号は平成10年12月12日、宮城県農業公社白石牧場で誕生しました。父が「北国7の8」号、母父が「賢深」号、母母父が「糸晴波」号です。

もともと、白石牧場でまき牛として利用されていましたが、生産された子牛の成績が優れているということで、県の基幹種雄牛として利用されることになりました。宮城県内で判明している育種価において、県で繋養していた種雄牛の中で枝肉重量が歴代一位、ロース芯面積、バラ厚が歴代二位となっています。脂肪交雑の育種価も1.98で「茂重波」号と変わらない高い能力を持っています。

「北光」号は今までの基幹種雄牛とは違い「茂重波」号の系統が入っておりません。そのため「北光」号は県内に多く見られる茂重波系統を用いて生産した繁殖雌牛との交配で近交係数を気にする必要がありませんことから、非常に使用しやすい交配候補である



〔「北光」号〕

ことも特長になっています。

「北光」号の産子は県平均よりも早く成熟、成長することから低コスト化につながると考えられています。

## ●「繁奥」号

「繁奥」号は平成8年4月4日、桃生郡桃生町の伊藤幸さん宅で誕生しました。父が「奥茂」号、母父が「茂糸波」号、母母父が「賢晴」号です。改良期待点は資質、中軀で交配注意点は肘後になっています。

第5回東日本和牛能力共進会では第6区父系去勢肥育牛群で1等賞4席（古川農協肉牛部会出品：高橋猛さん、菅原清一さん）を獲得しました。繁奥の枝肉断面は小ザシが綺麗に入り、多くの参加者から注目を集めました。

「奥茂」号の娘牛との交配は近交係数が高くなるため、注意が必要です。



〔「繁奥」号〕

## ●「奥北茂」号

「奥北茂」号は平成8年8月14日、登米郡米山町の須藤清さん宅で誕生しました。父が「奥茂」号、母父が「糸光」号、母母父が「第7糸桜」号です。母の「きたがわ5」号は当時の和牛育種価評価で脂肪交雑の育種価が県内トップで、枝肉重量、ロース芯面積の育種価も県内トップクラスでした。改良期待点は発育、資質、尻で交配注意点は体深、腿となっています。

第5回東日本和牛能力共進会では第1区若雌の1で1等3席（石巻市の佐々木勝作さん）と2等賞（栗原市の高橋一成さん）、第2区若雌の2で2等賞（小牛田町の近藤誠さん）、第3区父系若雌牛群で最高位賞と名誉賞（登米和牛育種組合出品：守屋慶市さん、佐々木昌典さん、尾上正彦さん、千葉啓さん）を受賞しました。第3区父系若雌牛群で最高位賞名誉賞を受賞した牛の写真は、「宮城県産業経済部畜産課ホームページ



〔「奥北茂」号〕

(<http://www.pref.miyagi.jp/tikusanka/index.htm>)  
→家畜改良衛生班→第5回東日本和牛能力共進会結



果」から見るすることができます。第6区父系去勢肥育牛群では優等賞1席(登米和牛育種組合:千葉敏さん、沼倉郁夫さん、千葉英軍司さん)を獲得しました。出品された枝肉は肩や腿へのサシがすばらしかったそうです。この受賞で「奥北茂」号が質・量兼備型種雄牛であるということの証明ができたと思います。

第5回東日本和牛能力共進会に出品された「繁奥」号と「奥北茂」号産子の枝肉写真、母方の血統と成績は「宮城県畜産試験場(<http://www.pref.miyagi.jp/tikusans/index.html>)→第5回東日本和牛能力共進会結果」でご覧になれます。ページを開くと枝肉の写真が載っており、見たい枝肉をクリックすると拡大写真を見ることができます。

「奥茂」号の娘牛との交配は近交係数が高くなるため、注意が必要です。



(「神勝福」号)

●「神勝福」号

「神勝福」号は平成9年9月11日、遠田郡南郷町の只野善久さん宅で誕生しました。父は「茂勝」号、母の父は「初代14」号、母の母の父は「第31清滝」号です。「初代14」号は広島県を代表する茂金波系の種雄牛です。

第5回東日本和牛能力共進会では第2区若雌の2で名誉賞(志田郡松山町の久本次男さん出品)を獲得しました。この出品牛の特徴は体積、均称に優れ、体の深みがすばらしいものでした。

「茂勝」号の娘牛との交配は近交係数が高くなるため、注意が必要です。

●「勝緑」号

「勝緑」号は平成9年10月18日、登米郡米山町の佐々木成子さん宅で誕生しました。父が「茂勝」号、母の父が「紋次郎」号、母の母の父が「寿高」号です。「紋次郎」号は但馬の系統としては比較的大型で家畜改良事業団の種雄牛として活躍しました。

改良期待点は資質、体積、腿で交配注意点は体伸、肩後です。

「茂勝」号の娘牛との交配は近交係数が高くなるため、気を付けて下さい。



(「勝緑」号)

以上、紹介した種雄牛の平成17年10月のみやぎ総合家畜市場での取引金額は以下のようになっています。

種雄牛	性別	頭数	平均価格	平均体重(kg)
奥北茂	雌	55	382,887	258
	去勢	58	496,016	297
	計	113	440,953	278
勝緑	雌	27	408,683	270
	去勢	21	531,750	292
	計	48	462,525	279
神勝福	雌	21	434,900	279
	去勢	18	523,775	305
	計	39	475,919	289
市場全体	雌	639	423,452	268
	去勢	740	523,697	297
	計	1,379	477,245	284

この表から「勝緑」号、「神勝福」号が市場で高い評価を受けていることが分かります。また、第5回東日本和牛能力共進会の好成績を受けて今後の「奥北茂」号の評価も上がると考えられます。

現在、「北光」号は肉質を落とすことなく、増体が期待できる県産種雄牛として、「奥北茂」号、「繁奥」号は「奥茂」号の後継牛、「神勝福」号、「勝緑」号は「茂勝」号の後継牛として期待されています。

### “牛乳・乳製品フェア ミルクカレッジ2005” 開催報告について

宮城県牛乳普及協会

10月29日(土)、30日(日)「牛乳・乳製品フェア ミルクカレッジ2005」が仙台市「勾当台公園」において開催されました。今年は、骨粗鬆症や生活習慣病の予防に有効と言われる、牛乳・乳製品に含まれるカルシウムに対する知識普及の定着化を図るイベントとして骨密度測定後、測定結果の解説と今後の食生活の提案について、医師・栄養士の先生から指導を受けるコーナーを設けました。生活面・食生活面における改善策を熱心に聞きながら、今後の参考に役立てていたようです。

各メーカーによる牛乳・乳製品の試食や販売、ミルククッキングスクールの料理講習会、手作りバター体験、大鍋試食会のほか、乳搾り模擬体験、ポニーの乗馬等、子供達が楽しめる遊具をそろえ、牛乳・乳製品についての知識を深めながら、美味しく楽しく過ごすことができました。

そのほか、キャンパスステージでは、3-A-Day スペシャルトークでタレントの眞鍋かをりさんを迎え、3-A-Day運動(牛乳・ヨーグルト・チーズをどれでも1日3回食生活に取り入れること)をテーマに少ないエネルギーで食生活が改善され、栄養バランスが良くなるお話をしていただきました。

大盛会のうちに終了した牛乳・乳製品フェアでしたが、不規則な生活、偏った食事やストレスに悩む現代人の生活を見直していただき、牛乳・乳製品がより身近な食品で、栄養価の高いすばらしい食材であることを実感していただけた2日間だったと思います。



(村山ひろみ)

### 第45回仙台牛枝肉共進会終了報告

全国農業協同組合連合会宮城県本部

農林水産祭参加 第45回仙台牛枝肉共進会は、11月6～9日の4日間、仙台中央食肉卸売市場において開催され、盛会のうちに終了しました。

#### 【チャンピオン牛】

(第1部)

黒毛和種去勢の部

出品者：佐藤 喜一 (JAあさひな)

血統：父 北国7の8

母の父 高栄

規格：A5 枝肉重量：498.0kg

枝肉単価：6,805円

(第2部)

黒毛和種雌の部

出品者：加藤 節也 (JAいしのまき)

血統：父 安重福

母の父 美津福

規格：A5 枝肉重量：335.0kg

枝肉単価：6,303円

#### 農林水産祭参加 第45回仙台牛枝肉共進会

##### 第1部 黒毛和種(去勢)

褒賞区分	上場番号	農協名	氏名	血統		規格	枝肉重量	枝肉単価
				父	母の父			
チャンピオン賞	139	あさひな	佐藤 喜一	北国7の8	高 栄	A5	498.0	6,805
最優秀賞1	99	みやぎ登米	小野寺富夫	美津福	北国7の8	A5	464.0	3,019
最優秀賞	13	みどりの	菅野 一夫	茂 勝	安 平	A5	480.5	2,705
最優秀賞	37	いわでやま	柳沼 義人	美津福	北国7の8	A5	517.5	3,025
最優秀賞	73	みやぎ登米	渡辺 恵一	安福165の9	平茂勝	A5	503.0	2,712
最優秀賞	74	みやぎ登米	渡辺 勝志	松福美	菊 谷	A5	423.5	2,948

##### 第2部 黒毛和種(雌)

褒賞区分	上場番号	農協名	氏名	血統		規格	枝肉重量	枝肉単価
				父	母の父			
チャンピオン賞	195	いしのまき	加藤 節也	安重福	美津福	A5	335.0	6,303
最優秀賞1	161	栗 っ こ	後藤 章	安平照	福 栄	A5	390.5	2,822
最優秀賞	191	みどりの	高松 清一	第6栄	茂 勝	A5	363.0	3,332

(畜産課 高川 信幸)

## 第12回全日本ホルスタイン共進会報告

## 宮城県ホルスタイン協会

第12回全日本ホルスタイン共進会が栃木県壬生町を会場に、平成17年11月3日高円宮妃殿下をお迎えし開会され、11月6日までの4日間開催され、宮城県より6頭出品致しました。

全国より、ホルスタイン種300頭が出品され12部門に分かれ審査が行われましたが、宮城県より出品した各区の審査結果は下表のとおりで大健闘しました。

ホル全共に対し、種々ご支援ご協力を賜りました関係者各位に対し、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

## 第12回全日本ホルスタイン共進会宮城県出品牛成績

出品区分	出品番号	名 個 体 識 別 番 号	生年月日	出品者	成 績
3	301	ゴールデンファーム スペシャル ダーハム 1187882366	16. 6. 27	栗原市 砂金 篤孝	1等賞7席
4	409	ブラメリア デイフエンド ファーストレディ 1200582822	16. 3. 29	角田市 佐藤 護	2等賞7席
9	914	サクセス エランド クリスタル 1033023400	14. 1. 20	丸森町 サクセスシンジケート 代表 半沢善幸	1等賞2席
10	1025	ベアーバリー ズワルチェ リートンマーク 1038367424	13. 2. 19	栗原市 熊谷 克郎	2等賞15席
11	1119	サウスファーム アデイダス ウエルキン 1033041442	12. 3. 2	丸森町 長谷部裕行	2等賞1席
12	1214	エクセレントファーム ヘグマン ポーレットマックス 1036303349	9. 11. 25	栗原市 鈴木 義博	2等賞4席

## 宮城県出品牛及び出品者



左から 長谷部裕行氏 半沢善幸氏 佐藤護氏 砂金篤孝氏 熊谷克郎氏 鈴木義博氏



## 〈衛生便り〉

## 高病原性鳥インフルエンザ

仙台家畜保健衛生所

高病原性鳥インフルエンザは、インフルエンザウイルスの感染により、鶏や七面鳥に高い病原性を示す疾病で、家畜伝染病予防法で法定伝染病に指定されています。突然の死亡率の上昇があり、高い場合は100%に達することもあります。臨床症状は①呼吸器症状②顔面・肉冠・脚部の浮腫や出血壊死③産卵低下や産卵停止④神経症状または下痢等が認められますが、急性の場合には、ほとんど病変が認められずに突然死亡することもあります。

国内では、平成16年1月に山口県で79年ぶりに発生し、その後2月には大分県（愛玩鶏）や京都府（採卵鶏）で発生しました。また、今年6月には茨城県で感染鶏に症状をほとんど示さない弱毒タイプ（H5N2亜型）が発生しました。海外でも、10月にルーマニアやトルコで初めて発生が確認されるなど、世界的な広がりを見せています。

このような背景を踏まえ、全国的に1,000羽以上の鶏・あひる・うずら・七面鳥を飼養する農場を対象とした監視体制の強化が図られます。その内容としては、

- ① 家畜伝染病予防法第5条に基づく毎年1回の抗体検査の実施によるモニタリングの強化（採卵鶏のみ）。
- ② 家畜伝染病予防法第52条に基づく毎月1回の死亡羽数の届出です。

冬はもうすぐです。渡り鳥の飛来の季節となりますが、野鳥・水禽類との接触は農場内へのウイルスの侵入ルートのひとつとされていますので、飼養衛生管理基準に基づき、防鳥ネットの設置、消毒の徹底などの対策を心がけてください。また、飼養鶏の様子がおかしいと感じた場合は、すぐに最寄りの家畜保健衛生所や地方振興事務所畜産振興部にご連絡ください。

(防疫班 矢島 りさ)

## 〈New face〉

宮城県登米農業改良普及センター  
熊田 修之

はじめまして、平成17年4月から登米農業改良普及センターに配属になりました熊田修之と申します。よろしくお願ひします。出身地は福島県須賀川市でとてもものどかなところ。出身大学は仙台にある東北大学農学部、そのまま進学して、今年3月に同大学院農学研究科を修了しました。

私の実家は水稲農家であり、畜産との関わり合いは無かったのですが、動物が好きで、身近に接することのできる農学部の動物系に進み、畜産を学びました。大学院では核移植技術を用いたブタ卵母細胞の成熟・発生の研究をしていました。大学院で研究している中で、このような基礎的研究ではなく、できるだけ現場に近いところで何かをしていきたいと考えるようになり、大学時代から住んで愛着を持っている宮城県に畜産担当として就職しました。

宮城県に就職して早半年以上が過ぎました。生活、環境、仕事等、何事も目新しいことばかりであり、一日一日がとても短く感じられました。諸先輩と共に農家を巡回し、日々の仕事をしていく中で、とてもやりがいのある仕事であると実感しています。この半年あまりの中でとても印象に残っているのは、農家派遣研修という農家に泊り込みで共に生活をする研修でした。毎日の給餌に始まり、日々の仕事を行うことはとても大変で苦勞しました。しかしながら、この研修を通し、農家の苦勞の一部ではありますが体験し、日々の生活を知り、たくましさを感じることができたことはこれからの普及員としての活動の中でとても重要な経験となりました。まだまだ未熟であり、周りの先輩方に支えられ助けられる毎日ですが、意欲的に農業を営む人たちを支援し、地域農業の潜在力が十分に発揮できるための「地域に身近な普及センター」を目指し努力していきたいと思ひます。